



TITLE:

ニホンザルの歯の咬耗と機能・食性との関係について(Ⅲ 共同利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

小林, 繁

CITATION:

小林, 繁. ニホンザルの歯の咬耗と機能・食性との関係について(Ⅲ 共同利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所年報 1989, 19: 76-76

ISSUE DATE:

1989-09-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/163872>

RIGHT:

ニホンザルの歯の咬耗と機能・食性との関係について

小林 繁 (九州歯大・歯)

乳歯は永久歯に比べ摩滅が早く、咬耗の形成機序、特に食性との関係を検討するには好都合だと思われる。そこで飼育された個体の咬耗および咬耗痕を調べる前に、野生のニホンザルの下顎第二乳臼歯において、wear facet や磨耗痕を機能解剖学的観点より調査した。資料は歯牙年齢の異なる子ザルの10例20歯である。

(方法) シリコーン印象材により歯牙の精密印象を採得し、エポキシ樹脂で模型を作成、イオン・スプッターにて金を蒸着し、走査電顕にて観察した。

(結果) 咬頭、隆線の摩滅は protoconid、medial protocristid の順で始まり、hypoconid、postentocristid が続く。protoconid における crest a および paracristid や lateral protocristid の頬側面の咬耗痕は、遠心の oblique cristid と連続する。さらに crest a は medial protocristid と lateral posterior transverse cristid は postentocristid と連絡する。

また、medial protocristid や postentocristid では、象牙質が露出するとエナメル質と象牙質の硬度差から磨耗速度が変わり、凹窩が形成され、その凹窩には象牙細管の横断、縦断面が見られる。凹窩には2形あり、この形態の違いは puncture crushing cycle の有無から生じると考えられる。凹窩の歯牙運動方向最前縁には、強い power stroke のために運動方向に直交する亀裂が生じる。これはエナメル質の大量崩壊に結びつくものと考えられる。

なお、昭和63年度共同利用研究報告書未提出者と研究題目は以下の通りである。

昭和63年度共同利用研究報告書未提出者

- 計4-1 「チンパンジーにおける刺激等価性」
山本淳一 (明星大・心理)
- 7-3 「ニホンザルの縞視力および副尺視力の測定」
長田佳久 (立教大・文)
- 7-5 「注視行動時におけるサル視床枕核ニューロンの視覚刺激に対する反応特性」
沢井 元 (引前大・医)
- 13-3 「ヒト体液に対するモノクローナル抗体による霊長類の系統に関する研究」
辻 力 (佐賀医大)
- 自23 「Brain Dialysis 法による学習——記憶過程に伴う伝達物質の放出変化」
加藤 武 (東工大)